

12月報(2025年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26
☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615
e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp



【第27回日韓司教交流会】

桑田 多香子

今年には終戦80年、広島・長崎被爆80年にあたります。日韓司教交流会は、日本が植民地支配と戦争によりアジア諸国、とりわけ朝鮮半島の人々に多大な損害と苦痛を与えた過去の反省を踏まえ、平和への道をわきまえていくために始められました。第27回を迎える今年の交流会に、韓国から17名、日本から16名の司教様方が被爆80年の地広島に集い、世界平和記念聖堂でも祈ってくださったことは平和への道を歩むために意義深く感動的でもあります。



白浜司教様の11月20日のミサ説教の締めくくりは「…日韓の教会が、これからも、ともに祈り、交わり、活動を通して、平和への道を歩んで行くための希望の架け橋となることができるよう、神の導きと豊かな祝福を祈りたいと思います。」です。

司教様方をお迎えする準備、当日の進行など心を尽くしてくださったミカエル神父様、ありがとうございました。

私は、司教様方がミサ中に歌われたラテン語の主の祈りがとても美しく聞き入ってしまいました。

*テーマ「戦後80年の傷跡と希望～若い世代に平和をつなぐために」

*長生炭鉱水没事故現場と朝鮮人原爆犠牲者の塔の慰問



【聖年】

桑田 多香子



10月のある日、信者さんと「今年は25年に一度の聖年、巡礼の年」という話題になりました。25年に一度、ローマの四つの大聖堂にある『聖なる扉』が開かれること、巡礼に行きこの扉をくぐると全免償がいただけること、広島教区にも、四つの大聖堂にあたる教会が指定されていること。

「知らなかった！」昨年より母の介護で忙しくしている私は、教会にもあまり行かず、聖年のことも免償のことも知りませんでした。

夕食の話題で息子に話したところ「いつ行くん」「日曜日俺はいつでも空いてる」と全く予想していなかった反応が返ってきました。『赦しの秘跡』は中学生以来だと緊張しながらも幟町教会で受け、主日のミサにも与りました。もちろん『扉』もくぐってきました。彼、本気でした。これを聞いた妹が「私も行きたくなった」とラインをくれ、日韓司教交流会のミサに姉妹で与り全免償をいただきました。彼女も本気でした。25年に一度の『聖年』（次の25年はかなりの高齢）と『全免償』に釣られた巡礼でした。でも、これはとても大きなお恵みです！ありがとうございます！

後に、『希望の巡礼者』となるとはこんなことかもしれないと思いました。共同体の中での神様との繋がりが小さな希望をもたらし、さらに希望をもたらし、希望が広がっていきます。そんな希望の種を植える者となれるようにと願います。人生という巡礼のような日々の中で神様と繋がっていることは確かな希望です。毎日の生活の中で神様の働きに気づき、神様に感謝し、明るい気持ちで前進することができます。

【感謝を込めて】

財務 藤井 幸恵

山岸さん、私にとっては山岸先生と皆様から呼ばれていた方で、静かな方だった、という印象しかありません。その方が福山教会へ大きな寄附をしてくださいました。教区からお知らせが届いた時は、まだ名前が分からなかったのが右往左往しました。と言うのも弁護士さんからのお手紙の不具合で名前が分からなかったらしいのですが、名前を聞いてビックリです。なぜなら長い間、福山を離れていらっしゃった方だったからです。

福山教会を忘れず大事に大切に思っていてくださったのだなあと、感謝しかありませんでした。本当に教会は大勢の人々の祈りと支えによって成り立っているのだなと、改めて痛感いたしました。



ました。高齢化で人が減少していきこれからの教会運営の厳しさを感じていた折の寄附です。神様は私たちを支え守っていてくださる方。不安を安心に変えてくださる方、思い悩まず一心に祈り信頼して行ける方、なのだと思います。この寄附を通して改めて神様の御業を教えられました。

山岸さん本当にありがとうございました。福山教会の為に大切にに使わせて頂きます。皆様も山岸さんの為にお祈りをお願い致します。

【山岸先生の思い出】

平戸 まゆみ

山岸先生は、県立戸手高校の定時制の先生をされていました。

府中・新市地区とのつながりは40年以上前です。府中・新市地区の月1度のミサ、毎週1回の祈りの集いに参加されて府中・新市地区を支えてくれていました。

ご家族はお母様はすでに亡くなり妹さん2人の3人家族で、下の妹さんは大阪に住み、上の妹さんと2人で暮らしていました。結核になったため皆さん独身でした。

お金の管理は一緒に暮らしている妹さんに任せ、お給料も全て妹さんに渡していたそうです。代々受け継いだ土地が九州にあり、そこを駐車場にしてその収入もあったそうです。

妹さんはしっかりしているのできちんと残しておられたとお聞きしました。

山岸先生の思い出、儉約の楽しいエピソードは沢山あります。

- ・神辺から新市まで車でも電車でもなく自転車でいらしていました。
- ・安いイチジクを見つけたので祈りの集いに持って来て下さる途中、転んでイチジクを落とすてしまいましたが拾い集めてきました。帰りに拾い忘れていたイチジクが道に落ちていたので拾って持って帰りました。
- ・洗濯機が壊れたので手で洗濯機を回しました。
- ・青春切符で九州まで行き、観光するのでもなく、おいしいものを食べるのでもなく、駅からも一歩も出ずに帰りました。

- ・大阪の妹のところへ各駅停車で乗り継いで行きました。
- ・自転車が壊れた時リサイクルショップで安い自転車を見付けました。とか…

山岸先生が楽しい儉約話をしてくださったこともあります。

- ・フィリピンの子ども達におもちゃをくださいましたが、もちろんリサイクルショップ。
- ・府中ミサの台を手作りで作って持って来てくださった。
- ・マザーテレサの男子修道院『神の愛の宣教会』に行かれた方が、コーヒー紅茶どちらが良いですかと聞かれたので紅茶をお願いしました。ブラザーたちのカップには3分の1ぐらいしか紅茶が入っていなかったという話を聞くと、山岸先生は5千円と紅茶を送りつづけたそうですが、紅茶を送るのに送料がかかるので、一つ一つ紙を貼って厚みを薄くして送ったそうです。
- ・何十年も前、ペルー人の小学校5年生を3か月ホームステイで受け入れたことがあったようですが、貧しい地区の子でした。その子は立派に成長しペルーの国家公務員となり重要な働きをしています。その子が山岸先生に報告をくれたそうです。山岸先生らしくその子を援助していたのだと思います。
- ・福山教会でも外国人のためのミサに、因島やいろいろな所へ神父様と一緒に行かれ、神父様をサポートされていました。

数年前に、一緒に住んでいた妹さんが亡くなり、大阪の妹さんが病気になられたので看病のため大阪に行き、妹さんのために海が見える明石の施設を見つけ二人で入られましたが、食事がおいしくないと妹さんが言うので遠くまで買い出しに行ったり、妹さんを一生懸命看病していましたが、5年前妹さんのために、食事のおいしい大阪の施設に移りました。

山岸先生も腰を痛めて車椅子になったそうです。山岸先生の米寿のお祝いに市からお米券を頂きましたが、施設で必要ないので、『福山教会のホームレス炊き出し』にお渡しくださいと送ってこられました。

山岸先生の楽しい儉約話、思い出はたくさんありますが、お金があっても環境が変わっても囚われることなく、自分らしくブレることなく生きていらっしゃいました。

高ぶり、偉そうにしている姿は一度も見ていません。優しく、穏やかで、愛と謙遜、清貧と敬虔山岸先生に沢山のことを学ばせて頂きました。

【西経一神父様のご講話を視聴して】

麻生 悦子

備後協働体研修会に動画配信で参加しました。

『世の仕組みは、やり取り交換。天秤に掛けて比べて等しいと交換している。右と左が比べられている。しかし交換を破る領域がある。排泄物しか差し出すことしかできない赤ちゃんを良い子良い子と抱き上げて育む親の愛。そのように神さまも私を良し良しと愛してくださっている。そ



れが天国なのだ。』『信仰に天秤は不要。自分のわざを信じるのではなく神の愛を信じる』とのお話が心に響きました。

お話の中に織り込まれるエピソードがきみまろさんの漫談のように面白くて、神さまの愛、ミサは感謝の祭儀であること。信仰を天秤にかけないこと 信仰の伝承には公教会六つの掟が役立つこと等スーッと胸に入ってきました。私も『地の塩世の光』のような働きのできる信者？になりたいものだなあ。と感じました。

主人は信者ではないので、教会の話にはあまり興味を示さないのですが、これは聞いてもらおう！と思い食卓にパソコンを開きました。食事がすんでも最後まで視聴して「普通の信仰は苦から救われたくて入るのに、カトリックの信仰は救われているところから始まるのだな。」「お話は真理だなあ」と言いました。分かち合いができて嬉しかったです。友達にも勧めました。

西神父様のお話はカトリック福山教会動画配信 11月15日備後協働体研修会で視聴できます。当日参加できなかった方はぜひご視聴くださいね。とてもいいお話ですよ。

【三次キリシタン灯籠のそうじツアー】

富田 恵子



11月18日火曜日。

三次教会の10時の御ミサのあと、三次教会の信者さん2名とジャン神父様、アルナルド神父様と私たち福山のメンバー4名が参加して掃除開始。あいにく雨が降り始めましたが、多量の落葉と格闘して、最後はスッキリしました。

「再び桜の季節に会いましょう」とまたの再会を楽しみにお別れしました。ジャン神父様のお元気な姿も嬉しい再会でした。

【11月の行事】

・教会大掃除はフィリピン青年が窓をピッカピカにしてくれました！有難う

・七五三の子ども達も神父様から祝福を頂きました。



【南相馬便り ⑧ 2025 年 11 月】 援助マリア修道会 南相馬修道院 北村令子

5月の下旬に、カリタス南相馬のスタッフの研修として、飯舘村長泥地区の視察をさせていただきました。飯舘村については以前書いたことがあります、そんなに記憶に残るようなことではないのでもう一度書きます。読み進んで、ああ読んだ覚えがあると思われれば記憶装置がまだ正常です。

東電原発事故で、飯舘村も全村強制避難の地域です。外で活動できない飯舘村の中学生の保養に暁の星の研修センターに招待して、交流したことがあります。



村の大部分が解除された時、長泥地区は住民が少ないという理由で除染されず解除されないことになって、地区の住民が国に解除の要請をした時、国は除染土を利用する実証実験に応じれば除染をしてやる、と。住民は実証実験も止むを得ずと了承して、除染が実施され最近帰宅困難区域が解除されました。

しかし、除染され解除されても交通手段もお店も、病院も何もない村に誰も戻ることはできません。立派な集会所はできていますが、村の人が集うことはないのではないかと思います。

そして、お米やトウモロコシ、野菜の畑を作るのに、放射能汚染された表土をはぎ取って、高線量の除染土は中間貯蔵施設へ運ばれ、一定の線量以下で資材化された土は畑となるところに入れ、その上に50センチほど放射能汚染のない山土をかぶせて、畑や田んぼとするのです。そして実験的に植えたお米や野菜、花などの線量を測って、基準値を超えていないことを確認し、安全と判断されれば、出荷となるのかと思いきや、そうでないことに驚きました。

今回初めて私たちも知ったことですが、農家さんは避難先の福島市から1時間以上かけて通って、作物の世話をし、収穫をしても、実証実験は環境省の管轄で、出荷はできないで、廃棄となるのです。これを聞いて、怒りがこみ上げてきました。お米や野菜はともかく、口に入るものでないお花は出荷して生産者のお小遣いにでもなればいいのにと！！

今回視察に行った私たちは、実証実験で栽培されたお花をいただいて帰りましたが。

国の政策とはいえ、生産者の方たちの気持ちを踏みにじるようなやり方に心が痛く、何とか方法はないものかと考え込んでしまいました。今回直接生産者の方と話し合えたことは、私たちにとって大きな収穫でした。

私たちが小高に住んでいますというと、「小高もおんなじだろう！」と、同情してくださいました。苦しみを経験された人は他の人の苦しみにも敏感なんだと感謝しました。小高はまだまだましです。電車も通っているし小規模ですが、お店もあります、病院もあります。

(最近のニュースで、長泥地区のお米が今年から出荷できるとの嬉しいニュースがありました。)



わたしの召命物語

福山暁の星学院の事務局で働いていた時のことです。暁の星小学校の体育館が古くなって、建て替えが必要になりました。改築計画の中で資金調達が一番大変な懸案事項で、少子化の波が近くやってくる予想の中で、数億円かかるこの事業の資金をどのように調達できるのか頭の痛い課題でした。全国のカトリック学校や教会、企業の寄付を仰ぐことで、乗り切ろうと、準備を重ね最終段階の寄付金の依頼書を書き上げ、郵便振り込みの手数料無料、切手不要の手続きのために、2011年3月11日午後、福山東郵便局に行きました。

手続きを終えて郵便局を出た時、午後からの仕事がどれだけできるかと、腕時計を見たのが午後2時45分でした。車で学校に帰ってみると、「シスター大変！！」と受付の職員が血相を変えて「東北が大地震で大変な様子です！」と教えてくださいました。テレビの臨時ニュースを見て、「こうしちゃおられんよ！寄付金は、うちよりこっちに必要だから、今やってきた手続きを取り消しに行ってくる」と言って、すぐ福山東郵便局へ取って返し、「先ほどの手続き、キャンセルします。止めてください！東北が大地震です！ニュースを見てください」と。

それからは皆さんも同じだと思います。テレビのニュースにくぎ付けです。次の日もっと大変なことが起こりました。東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故、次々と爆発、放射能の拡散・・・外国メディアから、広島・長崎を思い出させる、きのこ雲の写真。

これを見た時、これはただ事じゃない！！一大事！！子供のころ、放射能の恐ろしさをいやというほど聞かされたことを思い出しました。さすがにあの皮膚の垂れ下がった幽霊のような姿の報道はありませんでしたが、広島の前爆で内部被爆のため多くの方が外的な傷がないだけに人知れず苦しめたことを知っている私は、この事故にあわれた方々の苦しみを想像しました。

そして、遠いところの、心が痛んでおられる方々のそばで、私でも何かお役に立てることがあれば、飛んでいきたいと思いました。でも現実には小学校の体育館の建て替えのこともあるし、福山暁の星学院の事務局の仕事を引き継いでもらえる人は急には現れないし、自分の本文をしっかり果たすことで、心を寄せ、祈りながら、情報を集めながら時を待ちました。

広島で肥田舜太郎先生（以前書いたと思いますが、広島の前爆の時、郊外に往診に出ていて助かったお医者さん）の講演がありました。福島の前爆事故と前爆との関係について、目に見える被害はなくても、放射能を吸い込んだり、汚染された水、野菜などの摂取によって内部被ばくの恐れがあることを強調されていました。

このお話を聞いて、私はもっと強く福島の人々と共に生きることを望むようになりました。その後の展開は次回に譲ります。

【帰天のお知らせ】

パウロ 高坂 和正 様 (87歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

【12月・1月の行事予定】

12月		1月	
7(日)	待降節黙想会(住田神父様)	元日	神の母聖マリア 成人のお祝い
8(月)	無原罪の聖マリア	4(日)	主の公現 成人のお祝い
14(日)	福山教会クリスマス会	11(日)	主の洗礼
24(水)	主の降誕前晩(19時・24時)	18(日)	キリスト教一致祈祷集会(25日迄)
25(木)	主の降誕祭(10時)		サントニーニョ
28(日)	聖家族		聖トマス小崎巡礼(三原)
31(水)	23時～聖時間 24時～ミサ	25(日)	世界子ども助け合いの日(献金)

【編集後記】

本当のプレゼント

もう何日寝るとクリスマス、子どもの頃のクリスマスは、もらうプレゼントやケーキの事だけで頭が一杯だった。私が願っていたプレゼントをもらえるのか？ワクワク・ドキドキしながら待っていたものだ。あのワクワク・ドキドキ感、胸が待つ気持ちで一杯になる高揚感と期待感！！

でも、もう本当のクリスマスは、神様が私達人類の為、いえ私の為に大切な子、イエス様をプレゼントして下さった日なんだよね。イエス様をお迎えする私は、ワクワク・ドキドキと胸躍らせて待ち望む私でありたいと思うし願いたいと思う。

イエス様来てくださってありがとう。

マリア様イエス様を生んでくださってありがとう。(S・F)

